



手書きの温かさを知る授業 杉並小学校で 年賀状の書き方教室を開催

11月12日（水）杉並小学校の4年生を対象に、高浜郵便局のご協力のもと、年賀状の書き方などを学ぶ授業が行われました。授業では、高浜郵便局の皆さんから、宛名の書き方や文章のマナーなど、年賀状を書くうえで大切なポイントを教えていただきました。児童たちは、教わったことを確かめながら、実際に年賀状を書く体験にも挑戦しました。「はがきに絵や文章を書いたりするのが楽しかった」と話す児童もあり、児童みんなが真剣に取り組む姿が見られました。



▲高浜郵便局の皆さんによる授業を熱心に受ける児童たち。



▲最終審査会の様子。富有柿の皇室への献上は、昭和30年から毎年行われています。

児童の自主活動から地域へ広がる 瓦会小学校で 地域と協力した清掃活動を実施

11月7日（金）瓦会小学校で、児童と地域住民が協力して地域清掃を行いました。同校では主体性の育成に力を入れており、その中で児童が自主的に下校時に歩いていたごみ拾いが、学校運営協議会や地域の農業団体にも広がり、今回の活動につながりました。清掃に参加した児童からは「たばこや空き缶が多くて驚いた」「地域の人と一緒に活動できてうれしかった」といった声が聞かれ、地域との交流を深める貴重な機会となりました。

県内唯一の皇室献上品 富有柿の最終審査会を実施 秋の実りを皇室に

11月19日（水）八郷総合支所で本市特産「富有柿」の皇室献上用最終審査会が行われました。夏の猛暑など厳しい条件の中でも生産者の努力が実り、出荷組合による一次審査で選ばれた162個の中から、厳選された72個が献上品として選ばされました。審査には、谷島市長や八郷柿振興協議会の役員の皆さんなどが立ち会い、柿の色や形を細かく確認しました。選び抜かれた柿は、翌20日、関係者により皇居および秋篠宮邸へ届けられました。

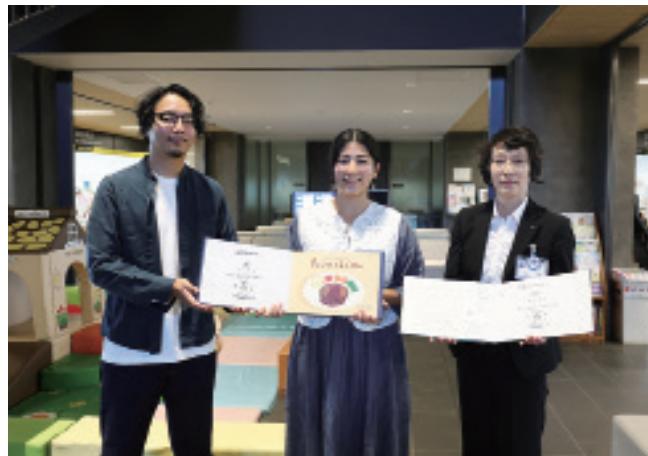


▲地域の方と協力しながらごみ拾いに取り組む児童たち。自主的な活動として続けてきたごみ拾いが、地域へと広がりました。



市役所キッズスペースに新しい一冊 絵本作家・小林由季さんが絵本 を寄贈

土浦市出身で、今年7月に石岡市八郷地区へ移住された絵本作家・小林由季さんから、ご自身がイラストを手掛けた絵本『きょうのよるごはん』を寄贈していただきました。寄贈された絵本は、市役所本庁舎1階のキッズスペースに設置しており、小林さんの直筆サインも添えられた特別な一冊です。小林さんは「いつか移住先である八郷を舞台にした絵本や絵を描けたらと思っています」と意気込みを語ってくださいました。温かみのあるタッチで描かれた作品を、ぜひお手に取ってお楽しみください。



▲絵本を寄贈してくださった小林由季さん（写真中央）、夫の雄仁さん（写真左）、子育て健康部長（写真右）。寄贈された絵本とともに記念撮影しました。



▲準優勝を報告する平岡碧生さん（写真左）と谷島市長（写真右）。

夢は“プロスケーター” 石岡の小学生が 県知事杯スケボーフェスティバルで準優勝

石岡市在住の平岡碧生さん（瓦会小学校4年生）が、10月26日（日）に開催された「第4回茨城県知事杯スケートボード大会 in かさま」で準優勝を果たしたことを受け、谷島市長を表敬訪問しました。平岡さんは「スケボーでプロになって石岡市に恩返ししたい」と力強く語ってくれました。市内には、JR石岡駅前に「茨城電設スケボーパーク石岡」が整備されており、日頃からスケートボードに親しむ環境が整っています。今後ますますの活躍が期待されます。

人権教育研究指定校としての取り組み 八郷中学校で 人権教育の公開授業を実施

11月28日（金）八郷中学校で、茨城県「人権教育研究指定校事業」として公開授業が行われました。1年4組では、生成AIを“特定のスキルを持つ専門家”として位置づけ、道徳科「わたしの『ふつう』と、あなたの『ふつう』」をテーマに学習しました。生徒たちは、生成AIとの対話をもとに、よりよい集団生活の在り方を考えるとともに、多様な価値観を尊重する姿勢を育みました。授業後、沼田はるか先生は「互いに教え合い、素直に意見を聞き合う生徒たちの姿が見られ、成長を感じました」と話してくれました。



▲生成AIを活用しながら授業に取り組む生徒たちと、その様子を見守り、指導する沼田先生（写真左）。